

第2学年道徳学習指導案

平成29年11月21日（火）第5校時
四万十市立東中筋中学校 第2学年 12名
授業者 尾崎俊巳

- 1 主題名 あたたかい人間愛 B(6) 思いやり、感謝
- 2 ねらい 若者たちの老婦人への気遣いについて考えることを通して、相手に負担をかけないように配慮した思いやりを理解し、より深く相手を思いやろうとする道徳的態度を育成する。
- 3 資料名 「軽いやさしさ」（出典：「自分を考える」あかつき）

4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の考え方

思いやりの気持ちが大切であることは、ほとんどの中学生が否定しないところであると思われる。その一方で思いやりの対象の範囲については、人と人との関わり合いが少なくなる中で、広がりにくくなっているのではないか。そして、そのことが自己中心的な言動の一因になっていると考えられる。指導にあたっては思いやりの大切さに終始するのではなく、相手にとって負担にならないように配慮がなされた思いやりに気付くことで、相手を一義的に思いやる気持ちと相手の気持ちにも配慮した思いやり、見返りを期待しない思いやりの違いについて考えることで、相手への思いやりの質が深まるようにしていきたい。

(2) 生徒の実態と教師の願い

本学級の生徒は、男女関係なく仲が良く互いに親しく接することができている。しかし、日々の生活の中でその親しさが度を過ぎ、相手への思いやりには欠ける言動となる場面も見られる。中学2年生という時期を思うと、身近であるが故に家族や級友などを疎ましく感じたり、気持ちを素直に表現しにくいことも考えられる。生徒たちには相手を思いやる言動の大切さとともに、相手の負担にならないように配慮することについて考えさせたい。

(3) 使用する資料の特質及び生徒の実態とかかわらせた指導の方策

本資料は菓子店を営む一人暮らしの老婦人と、そこに出入りする若者たちとの交流や互いの気遣いを描いた内容である。タイトルの「軽いやさしさ」のとおり、何気ないように見えるやさしさの中にある他者への気遣いを理解することを通して、思いやる気持ちの中にも相手への配慮を持つことの大切さに気付かせたい。

5 本時で期待する生徒の姿

〔授業前の生徒の考え方〕

・思いやりに対して見返りを期待している。

→ 〔授業を通して高めたい生徒の考え方〕

・相手に負担をかけない思いやりのあらわし方を身に付けたい。

6 準備物 場面絵1・2、ワークシート

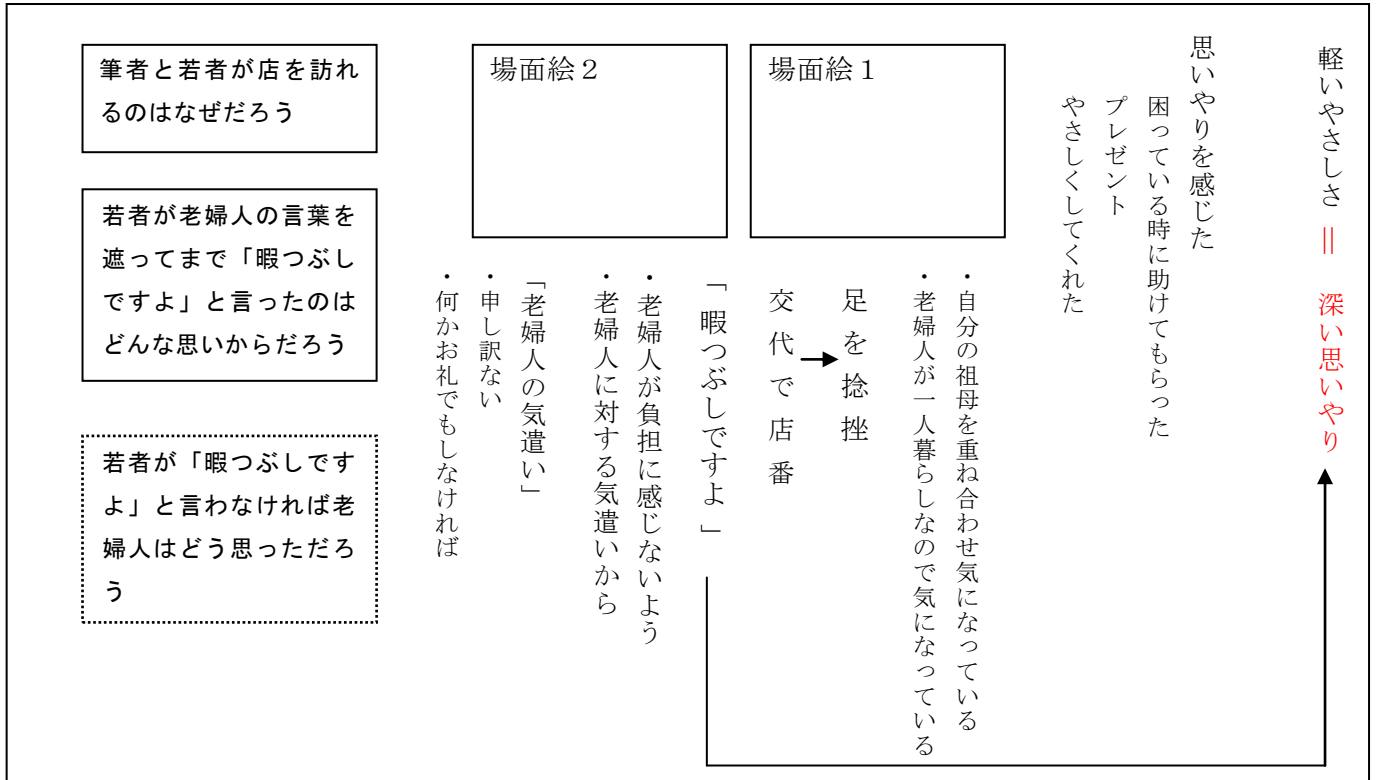
7 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応 ◎中心発問	指導上の留意点
導入	1 思いやりについて考える。	○相手の思いやりを感じるのはどういうときか。 ・困っている時に助けてもらったとき。 ・プレゼントなどをもらったとき。 ・友達にやさしくされたとき。	
展開	2 資料を読み考える。 (1) 若者たちが店を訪れる理由を考える。 (2) 「暇つぶし」と言った若者の気持ちを考える。	○筆者と若者が店を訪れるのはなぜだろう。 ・自分の祖母を重ね合わせ気になっている。 ・老婦人が一人暮らしなので気になっている。 ・老婦人のことを心配している。 ◎若者が老婦人の言葉を遮ってまで「暇つぶしですよ」と言ったのはどんな思いからだろう。 ・照れ隠し。 ・老婦人が負担に感じないように。 ・老婦人に対する気遣いから。	・補助発問「若者が『暇つぶしですよ』と言わなければ老婦人はどう思っただろう」によって、思いやりについて多面的に考えさせる。
終末	3 まとめ	○今日の学習を通して考えたこと・感じたことを書いてみよう。	

[評価の主な視点]

- ・思いやりの質の違いについて気づき、深い思いやりの気持ちについて考えた発言や記述がある。

8 板書計画



9 他の教育活動との関連

